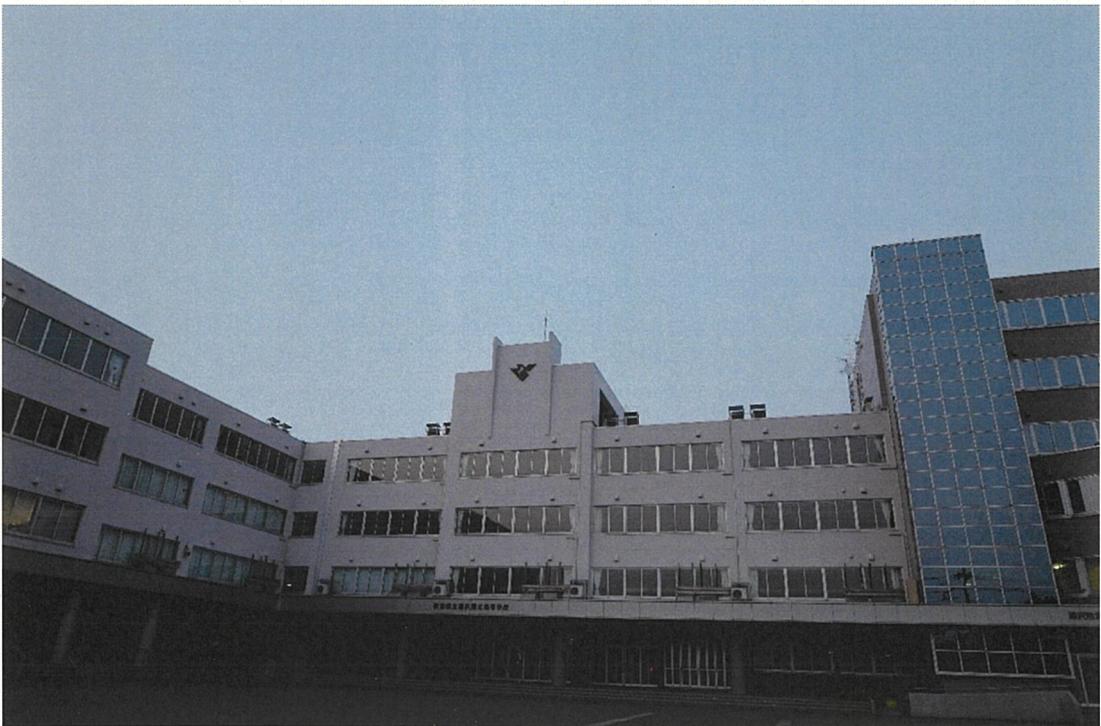


令和4年度

研修集録



秋田県立湯沢翔北高等学校

目 次

巻頭言	校長 坂本 寿孝	1
各種年次研修等		
実践的指導力習得研修（2年目）を終えて	能登 啓行	2
教職2年目研修を終えて	佐々木 祐輔	3
教職8年目研修を終えて	小野 由衣	4
中堅教諭等資質向上研修（10年経過）を終えて	五十嵐 早紀	5
授業研修		
互見授業実施要項		11
互見授業参観シート		12
その他授業研修学習指導案等		21
校内研修会		
不祥事防止研修会	研修部	23
クロームブック研修会	研修部	30
編集後記		

このたび、令和4年度研修集録が発刊のはこびとなりました。編集者、執筆者各位の御努力に厚く感謝申し上げます。

さて、「今後10～20年以内に47%の仕事が機械に奪われかねない」、平成25（2013）年に発表した論文が世界に衝撃を与えました。タイトルは「雇用の未来」です。オックスフォード大のマイケル・A・オズボーン教授らは、将来、AI（人工知能）の急速な発展が世界を大きく変えると予測しました。その後、文部科学省でも高等教育の将来に関する参考資料の中で、人工知能やロボット等による代替可能性が高い及び低い100種の職業を掲載していました。あれから10年が経ちました。オズボーン教授によると、現時点で一部は正しかったが、一部は間違っていたと評価しています。正しかったことの一つにAIがあります。世界ではいま、米新興企業「オープンAI」が開発したAI自動応答ソフト「Chat（チャット）GPT」が大きな話題を集めるなど、AIの言語能力は予想以上であると評価されています。

先の参考資料で教育に関する職業（教員）は、子どもたちの感情を考慮しながら接する必要がある人間にしかできないため、代替可能性が低い職業とされていました。しかし、学校現場では教員を巡る環境も大きく変化しています。同時に、AIに代替されないとはいえ、情報化の進展や社会の急速な変化を踏まえた新しい時代の教育への対応が常に求められています。一般的に、変化が激しく複雑で予測困難な時代においては、一度身につけた能力やスキルではすぐに使い物にならなくなってしまう危険性があります。パソコンで例えるとよくわかります。パソコンにはOSをはじめとして、たくさんのソフトウェアがインストールされています。これらはネット等を通じて頻繁にバージョンアップされ、常に最新の状態を保ち、新しいものに対応できるようにしています。

これからの時代には、一人ひとりが「適切な学習内容や学び方を選択できるスキル」、「自ら積極的に学び続けるスキル」が求められます。これらのスキルは「戦略的学習力」というものであり、令和12（2030）年に必要とされるスキル・知識の第1位に挙げられています。そして、すぐ使い物にならなくなるテクニカルなスキルより、「いかなる環境や境遇におかれても、どこでも活躍するためのスキル」を身につける重要性が高まっています。

私たち教員については、グローバル化、情報化の進展等、社会の急速な変化を踏まえた新しい時代の教育への対応が求められています。このような状況に対応するためにも、学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、主体性を発揮しながら、個別最適で共同的な学び、すなわち「戦略的学習力」によって教職生涯を通じて「研究と修養」に努めていきたいものです。

実践的指導力習得研修（2年目）を終えて

工業科 教諭 能登 啓行

1. 研修日程と研修内容

【Ⅰ期】 令和4年5月19日（木）

<講義・演習> 保護者対応と連携

細谷 林子 指導主事

<講義・演習> 学校組織の一員として－学校教育目標とホームルーム経営－

木村 ふさ子 指導主事

<講義・演習> 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業構想と実践①

山田 直康 指導主事

【Ⅱ期】 令和4年8月25日（木）

<演習・協議> 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業構想と実践②

山田 直康 指導主事

2. 研修を終えて

今年は1年生担任をさせていただいた。初経験のことが多々あり、その都度様々な先生方に御教授、御指導いただいた。特に、学級経営、生徒指導において、研修に多大な時間を割いていただきとても感謝している。去年に引き続き、校外・校内ともに研究授業を行い、様々なアドバイスをいただいた。今後の授業に還元させていきたい。

I期では、保護者との関わりについて、御教授いただいた。保護者の気持ちを考え、寄り添った対応が大切であることや、保護者は学校での様子がわからないかもしれないので、生徒の普段の様子を伝えることが信頼につながることを学んだ。保護者面談や個別の対応において、実践し大切さを実感することができた。また、学級経営において、生徒との普段のコミュニケーションで信頼関係を築くことで、学級で何かするとき大切であることを学んだ。実際に、コミュニケーションを密に、期待をかけていることを生徒に伝えることで、学級の問題を教えてくれる、他の生徒に注意するなど、学級経営の助けになってくれた生徒が複数いた。これからも、生徒とのコミュニケーションを大切にしていきたい。

II期では、研究授業を実践・参観した。実践では、授業の目標設定に課題を感じた。やる内容が目標ではなく、授業を通して何を身につけさせるかを目標にしなければいけないと学んだ。授業目標を決めるときにふさわしい目標になっているか自分に問いかけることを意識していきたい。参観では、他教科の先生の授業を生徒の視点でみせていただいた。授業に生徒を引き込む様々なテクニックを披露していただき、大変参考になった。

冒頭で述べたように今年は初担任で、様々な先生方に御協力いただき、自分の力不足を補っていただいた。今年の経験を生かし、翌年は業務を全うできるよう精進していきたい。

実践的指導力向上研修講座(高等学校5年目)を終えて

保健体育科 教諭 佐々木 祐輔

■ I期について

「教育相談と人間関係づくり」の講義・演習では教育相談における大切にしたい考え方や技法など演習を交えながら学んだ。時代の流れと共に多様な生徒が増加している中で生徒に寄り添いながらも「育てるカウンセリング」が重要となる。学校現場にはさまざまな人間関係があることに気づき、幅広い視野と柔軟な考え方で事例(問題)に対応できるように常日頃から生徒に目と心を向けていきたい。

各教科での講義・演習では多様な視点からの授業改善をねらいとして行った。学校や生徒の実態が違う中で他校の先生方が研究、工夫して取り組む授業には感心させられるものばかりであった。同時に自分の取り組みを省みる機会とすることができた。特に考えたのは生徒の思考を深めることが大切であるということだ。1単位時間の中でねらいを設定し、生徒自身が新たな課題を設定できるように発問を工夫したり、集団での活動を工夫したりして生徒たちが考えるきっかけを多くもてるような授業を目指していきたい。

■ II期について

主に「発達障害のある生徒の理解と支援」というテーマで講義・演習を行った。特別支援教育の現状と傾向を理解し、実際に生徒が抱える困難さやその困難さの背景にあるものなどの理解を深めた。また障害ごとの具体的な特性や対応について演習を交えて学ぶこともできた。多様な生徒が増えてきている今、インクルーシブ教育システムや合理的配慮についても理解を深め、的確な対応、指導ができるように努めていきたい。

各教科の協議・演習ではI期の研修で行った授業実践から新たな課題を設定し、その課題に取り組んだ過程と成果を協議の題材とした。共通して挙げられたものとしては体育授業でのICTの活用だ。これについてどの学校も試行錯誤しており、学校の環境面でも難しい点があるようだった。また本校体育科の課題の一つでもある「指導と評価の一体化」についても先生方の考え方や工夫を学べるよい機会となった。

■ 所感

5年研を終えて、授業に対する取り組みを今一度見直し、勉強していかなければならないと強く感じさせられた。時代と共に変化していくことに柔軟に対応し、その中でも不変的な生徒に寄り添う心や熱意を忘れずに取り組むたい。今後更に教員として、生徒の人生の道標となる大人として日々精進していきたい。

実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）を終えて

福祉科 教諭 小野 由衣

1. 研修日程と研修内容

【1回目】 令和4年6月15日（水）

<講義・演習>	不登校の未然防止と対応	小野寺 祐	指導主事
<講義・演習>	学校組織の一員として	八柳 英子	指導主事
<講義・演習>	カリキュラム・マネジメント	小松田 哲也	指導主事

【2回目】 令和4年8月8日（月）

授業評価による継続的な授業改善	部谷 靖子	指導主事
	越後谷育子	先生

2. 研修を終えての感想

8年目は秋田県教員育成指標における第2ステージにあたり、実践的指導力向上期として更なる授業改善や学校経営のマネジメント、生徒理解など多岐にわたって講習を受けた。特に「カリキュラムマネジメント」では、自校の教育目標や自校の持つ役割を再確認することができた。今回の研修を通して、教職8年目としての立場を改めて考えさせられた。授業力だけでなく、組織の一員として期待されることも多く、その期待に応えていかなければならないと感じた。自らの力を学校のために活用していけるよう、「強み」といえる部分を増やし、積極的に行動していきたいと思う。目の前の生徒の対応だけでなく、学校全体として、どのような生徒を育てていくべきかを考え、協働していくために、自分の分野でできることを考え、共有する必要があることがわかった。

Ⅱ期では、他教科の教員の授業DVDを見ながら、授業改善につながる要素を協議し、資質向上を図った。普段は見ることのない他教科の授業を見て、ポイントを捉えた授業構成や、効果的なICTの活用方法などを学ぶことができた。指導案については、設定した「ねらい」がこの1時間で達成できているかを評価できるように構成することや、「正しくできたかどうか」よりも、「吟味するだけでもねらいに向かう手立てとして成立する」こと等を教えていただいた。ICT環境が整備されておらず日頃から活用することはできないが、自分で調べて書くことは学習の基本であり、知識として定着するためには必要なことなので、できることを活かして宿題や予習・復習・演習を計画的に取り入れた授業を考えていきたい。また、他校と比べて専攻科は「介護福祉士の国家試験合格」という明確な目標があり、学習に対するモチベーションが高いことが“強み”であることに改めて気づくことができた。この強みを活かして、より専門的な学習ができるよう、授業改善を続けていきたい。

中堅教諭等資質向上研修を終えて

国語科 教諭 五十嵐 早紀

1 校長等連絡協議会（基礎研修）

日時：令和4年4月19日(火) 13:30 ~ 15:30
場所：秋田県総合教育センター
出席者：高等学校教諭研修対象者33名・研修担当教員22名
概要： <ul style="list-style-type: none">・教育委員会あいさつ・実施要項等の説明・質疑応答・研修に関する諸連絡

今年度の中堅教諭等資質向上研修について詳細な説明を受けた。秋田県教職キャリア指標を丁寧に確認し、自分自身が現在どの位置にいるのか、組織の中でどのような働きが求められているのかを認識することができた。1年間の研修を通し、一人の教員としてはもちろんのこと、組織の一員として必要な力を身につけられるよう、実りある研修にしたいと感じた研修だった。

2 研修Ⅰ期

日時：令和4年6月28日(火) 10:00 ~ 16:15
場所：秋田県総合教育センター
出席者：高等学校教諭研修対象者33名・他校種研修対象者
概要： <ul style="list-style-type: none">・質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略・学校の危機管理・学校組織の一員として —リーダーシップ—

社会の変化や学習指導要領の改訂に伴い、「新しい学力観・能力観」をどのように捉え、育成していくべきかを考えることができた。今後、現在よりも更に「主体的・対話的で深い学び」＝「探究型授業」の実践が求められる中で、教員の授業研究の質を向上させることは必要不可欠である。旧来の知識と方法では対応しきれないという実感は常々あったが、自分自身をアップデートすることに消極的になっていた面もあった。日常の業務を言い訳にせず、自身の教科指導力を高めるために質の高い授業研究を行っていきたいと強く感じた。

3 研修Ⅱ期

日時：令和4年7月26日(火) 10:00 ~ 16:15
場所：秋田県総合教育センター
出席者：高等学校教諭研修対象者33名
概要：高い専門性に基づく教科指導の充実と推進

受講者が自身の授業を撮影し、それを流しながら説明をしていった。授業の成果や課題、育成を目指す資質や能力、ねらいの設定とそれを達成するための学習活動など、複数の観点で授業を観て協議を行った。自分自身の授業はもちろんのこと、他の先生方の授業を拝見して協議したことを通して、非常に多くのことを学び得ることができた。授業のねらいはある程度の型が決まってくるが、教員の個性を一番出せるのは学習活動であるということを念頭に置き、様々な学習活動で「仕掛ける授業」を実践していきたい。

4 選択研修

日時：令和4年8月1日(月) ～ 令和4年8月3日(水) 8:30～17:00
場所：秋田県動物愛護センター ワンニャピアあきた
概要：・担当職員講話
・動物譲渡、譲渡希望者の面会現場見学
・施設見学、飼養管理実習
・犬のしつけ方教室への参加

動物が好きで、かねてより動物に関わる仕事を体験したいという気持ちがあったため、この研修の機会に現場を見て学びたいと考え依頼した。3日間という短い期間ではあったが、職員の方の講話や動物譲渡への立ち会い、犬と猫の飼養管理やトレーニングなど、様々な業務を体験させていただいた。高齢化が進む秋田県では、一人暮らしの高齢者がペットを飼えなくなり保護を依頼するケースが増えているという。また、良かれと思って野良猫に餌を与えて繁殖させてしまったり、避妊や去勢という飼い主の責任を果たさないがために、多頭飼育崩壊や保護動物の増加に繋がってしまったりするケースも多いとのことだった。今回経験させていただいたことを教材の一つとし、動物保護の現状を伝えるだけでなく、生徒に正しい知識と想像力を持つことの重要性を伝えていきたいと思った。

5 研修Ⅲ期

日時：令和4年8月25日(木) 10:00 ～ 16:15
場所：秋田県総合教育センター
出席者：高等学校教諭研修対象者33名
概要：・いじめの理解と対応
・気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解

「いじめの理解と対応」については、具体的な状況についてどのように対応すべきかを様々な観点から考えることができた。いじめの定義をよく理解し、「きっとこうだろう」という安易な思い込みで判断せず、あらゆる可能性を考慮して生徒と接する必要があると学んだ。

また、「気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解」では、他校の先生方から提示していただいた事例とその対応から学ぶことが多かった。生徒の家庭環境にも目を向けると、学校だけでなく他の関係機関と連携を取ることも必要だと改めて感じた。起きた問題そのものだけでなく、生徒が抱える背景をしっかりと踏まえた対応をしていきたい。また、近年不登校等の問題が増えているため、他の先生が対応に苦慮している場面があったら共に考え、チームで対応できる体制を構築していきたい。

6 授業研修

日時：令和4年9月2日(金) 9:00 ～ 15:40
場所：秋田県立秋田中央高等学校
出席者：高等学校教諭研修対象者5名
概要：・授業実践
・研究協議、助言

他校の生徒に対して授業を行った。事前情報を受けて、身につけさせたい力を明確にして授業を計画したつもりだったが、それでも1時間のうちに内容を詰め込みすぎてしまったと反省した。今回は現代語訳や文法事項の確認に時間を割きすぎてしまったが、必ずしも毎回丁寧に扱う必要はないという助

言をいただいた。その時間で扱う内容を優先するために、それ以外を「切り捨てる」勇気をもつことが必要である。授業のねらいを明確にし、扱う内容を焦点化させることが今後の課題だと実感した。

ICT機器を活用した導入については、研修校の先生方からも高く評価していただいた。今後は導入だけでなく、展開部分での学習効果を上げるための活用方法について考え、実践につなげていきたいと思う。

同じ教材・単元の授業を構想しても、受講者の先生それぞれが設定したねらいによって授業展開が異なっており、大変勉強になった。改善点は多く見つかったものの、今後の授業実践に大いに生かしていきたいと思う。

7 研修Ⅳ期

日時：令和4年10月12日(水) 10:00 ~ 16:15

場所：秋田県総合教育センター

出席者：高等学校教諭研修対象者33名

概要：・教育活動全体を通じたキャリア教育

・学校全体で取り組む情報教育

・人間としての在り方生き方を考える道德教育の在り方

各校の道德教育・キャリア教育の全体計画を見ながら、自教科における指導の可能性を考えることができた。他教科の先生方のお話を伺い、自教科とは異なる指導の観点を持って指導をされていることに大変刺激を受けた。ただ知識を身につけるだけの授業にならないよう、道德教育・キャリア教育の視点を持ちながら授業を構想し、実践していきたいと思う。

また、情報教育の講義の中で見た Society5.0 の映像は大変衝撃的で、同時に強い危機感を覚えた。今後、どんどん人間の思考が省かれていく中で生きていかなければならない子どもたちだからこそ、情報を扱うスキルはもちろんのこと、学校教育を通してしっかりとした思考力・判断力を身につけさせなければならない。思考には言語が必要不可欠である。言語を扱う国語科の教員として強い責任感を持ち、自分自身の思考力・判断力を鈍らせることなく、授業や教科外の様々な指導にあたっていきたい。

8 研修Ⅴ期

日時：令和5年1月10日(火) 10:00 ~ 16:15

場所：本校(オンライン)

出席者：高等学校教諭研修対象者33名

概要：・教育公務員の服務

・学校組織の一員として —キャリアデザイン—

・これからの学校教育

・中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって

教育法規をもとに、服務における義務を確認した。また、「キャリア振り返りシート」を作成して、採用からこれまでの11年を振り返り、今後のキャリアについて考えた。たくさんの先生方に支えられながら過ごしてきたことが改めて感じられ、今度は自分自身が若年の先生方を支える立場になるのだという気持ちを持つことができた。今回の講座は研修の締めくくりであり、教育公務員としての義務・責任・使命を確認する内容であった。今後も気を引き締め、中堅教諭としての自覚を持ち職務を全うしていきたい。

特定課題研究

【新学習指導要領の方向性を踏まえた「古典探求」の授業の実践】

1 研究の概要

(1) 経緯と動機

今年度のⅡ期研修講座で、高等学校国語科教育における課題として挙げられたのは次の3点であった。

- ①教材への依存度が高いこと
- ②主体的な言語活動が軽視されていること
- ③講義調の伝達授業に偏っている傾向があること

加えて、本県の令和4年度の教育の重点事項は次の2点である。

- ①資質・能力の確実な育成に向けた単元構想の工夫
- ②言葉による見方・考え方を働かせた主体的な学習活動の展開

以上の①～③、①～②と新学習指導要領の方向性を踏まえ、次年度以降に新学習指導要領が適用される2・3年生への指導として、どのような方法が可能かを分析したいと考えた。想定する科目は「古典探求」とし、今年度担当している3年総合ビジネス科2クラスを対象に1学期と2学期にそれぞれ1回ずつ研究のための単元を構想し、現行教科書の教材を用いて授業を実施した。2回の授業では、主体的な言語活動を通して言葉による見方・考え方を働かせ、自分の考えを深めることを主なねらいとした。

(2) 授業Ⅰ（1学期）

◎教材：『御伽草子』『浦島太郎』（高等学校改訂版 標準古典B）

◎概要：昔話や童謡を導入教材として概要を掴んだ上で、単元前半では文法事項の学習と本文の訳出を行った。単元の後半では、Chromebookを用いて各地域に伝わる様々な「浦島太郎」の昔話を調べ、

「御伽草子」と比較する活動を取り入れた。この作品の大きな特徴は、最終段落で主人公の浦島太郎が鶴となって空に飛び上がり、明神として祀られる結末部分である。記述をじっくりと読み比べることを通し、多くの昔話ではその結末が書かれていないことや登場人物の設定の微妙な違いに気づかせ「御伽草子」が書かれた時代背景や意図、昔話が現在の形になって伝承されている理由を考えさせた。一人一人の意見を交流させ、最終的に自分の意見としてまとめさせた。

(3) 授業Ⅱ（2学期）

◎教材：『源氏物語』『光る君誕生』（高等学校改訂版 標準古典B）

◎概要：単元前半では敬語等の文法事項の学習と訳出を行い、単元後半では登場人物の心情理解を行った。そして最後の学習課題として、「光る君誕生」の複数の現代語訳との比較・分析を行った。源氏物語は現代に至るまで様々な作家によって訳出されているが、文章表現や使用語句が特徴的な4人の作家（瀬戸内寂聴（1996）、中井和子（1991）、橋本治（1991）、角田光代（2017））の訳を取り上げた。限られた授業時間内で全てを詳細に比較分析することは困難なため、4人ずつのグループを8つ作り、一つの訳に対して2グループ担当を割り振って分析させた。本文と授業で扱った現代語訳との違いを各グループでまとめて発表させた後、「この後の展開を読み進めるとしたら、どの訳を選択するか」という問いを全体に向けて提示し、理由も合わせて個人で文章化させた。特徴的な意見を複数ピックアップし、次時に全体で共有した。

2 成果と課題

(1) 授業Ⅰについて

昔話と古典作品の比較読みは珍しい学習活動ではないが、比較対象となる資料を ICT 機器を活用して自ら調べさせるという形をとった。「地域に伝わる浦島太郎の昔話」を検索するためにはどのようなキーワードを入力すればよいか、生徒は様々考えながら取り組んでいたようである。また、適切な資料を選択するためには、比較対象となる古典作品への理解を深める必要もある。どのような点を比較項目として設定するかを各自で明確にさせ、自分が欲しい情報が含まれているかどうかをよく考えさせながら資料を探させることができた。検索して得られた情報は一人一人異なるが昔話の展開に大きな違いはなく、比較対象資料としては適切だったと思われる。あらかじめ教師が資料を与えることも一つの手段ではあるが、活動を受け身にせず自主的な学びを促すには、有効な方法だったと感じている。

昔話と古典作品を比較させたことで、現代に至るまでなぜ作品が変化したのか、その背景を深く分析することができた。その際、それぞれの表現や用いられている語句を伝統的な言語文化の変遷に思いをめぐらせることができた。一方で、ストーリー展開の比較を中心にしたために、肝心の「言葉」そのものへの意識を高めることはできなかつたと感じる。また、「古典探究」の目標である「(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につける」こと、「(3) 生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させる」ことについて、単に古典と昔話の比較では達成することは難しいと感じた。これらの点は授業Ⅱを行う上での課題とした。

(2) 授業Ⅱについて

総合ビジネス科の「古典B」は2単位であり、その限られた時間の中で一人ひとりが源氏物語の複数の現代語訳を比較・分析することはハードルが高いと判断し、担当を割り振りして分析させた。結果的に自分の担当部分に集中してじっくりと分析し、他の生徒にも分析した内容を分かりやすく説明しようという意識を高めることに繋がり、「言葉による見方・考え方を働かせた主体的な学習活動」とすることができた。また、単元の最後に「この後の展開を読み進めるとしたら、どの訳を選択するか」という問いを設定したことは、各グループの発表を判断材料にして「自分が」何を選択するかを考えさせることができ、更に主体的な学習活動となったと思われる。生徒にとって古典作品は「授業で扱うもの」で、普段手にとって読むことはほとんどなかっただろうが、中には「図書館で探して読んでみたい」「本文自体にも興味を持ったので、原文を読むことにも挑戦してみたい」という感想をもった生徒も少なくなかったことから、少しでも今後の読書への意欲に繋がったのではないかとと思われる。「古典探究」の目標である(1)・(3)の達成に近づけた実感があつた。

課題は、「古典探究」の授業として行う場合、今回扱った内容では不十分だったという点である。本文で用いられている一つ一つの古語の意味と訳者ごとの解釈の違い、文法の訳出の違いなど、細部まで読んでいくと更に詳細な比較が可能である。言葉の奥深さや解釈の裏にある意図、時代背景等をより深く追究することが、「古典探究」の授業として必要であつた。学習活動の中に「比較」を取り入れる場合、今回の比較の観点はやや大きな視点での設定だったため、比較の観点を更に詳細に焦点化して設定する必要がある。また、「古典探究」という科目の中で古典作品と現代語訳を扱うのであれば、読み深めたいのは原典である古典作品であり、最終的に原典に回帰させなければならなかつた。新課程の教科書を見てみると、このように源氏物語の現代語訳の比較を取り上げているのは「文学国語」(数研出版)であり、着目しているのは人物設定や心情の描かれ方の違いであつた。やはり、科目の特性と目標を考え、教材の選定と学習活動の設定を再考する必要があると感じている。

目の特性と目標を考え、教材の選定と学習活動の設定を再考する必要があると感じている。

3 次年度に向けて

今年度は新課程の科目を一つも受け持つことはなかったが、次年度はそのような機会も増えてくると思われる。国語科教員として古典作品自体の良さを感じるからこそ、「何を（どの作品を）教えるか」に重きを置いてしまいがちだが、本県の教育の重点課題でもある「資質・能力の確実な育成」を第一に考え、科目のもつ特性を私自身がよく理解しながら単元を構想し、授業を実践していきたい。

また、2回の授業を構想するにあたり、自校で採用した教科書以外にも、様々な出版社の新課程の教科書に目を通した。これまでの教科書と内容の違いがほとんど無いものもあったが、そのような教科書を使用する場合には科目に対する授業者の深い理解と、豊富な引き出しが必要だと感じた。今後も新課程の教科書を読み込み、科目の目標を達成するための授業について研究を続けていきたいと思う。

令和4年度 互見授業（授業研修）実施要項

研修部

1 目的

本校教員が互いに授業を参観し合うことにより、自教科における授業力向上や、他教科の授業のやり方を学ぶことに役立つ。また、生徒理解を深める機会とする。

2 期間

10月17日(月)～11月4日(金)

3 方法

あらかじめ各教科（芸術・家庭を除く）において授業者（チームでも可）、日時、クラス、内容（予定）を決めてもらう。また授業の流れが分かる簡素な資料か、簡略的な指導案も可能であれば準備していただく。

各教員は自教科・他教科それぞれ1回以上参観し、「授業参観シート」を提出する。

4 今年度のテーマ

「表現力を高めるための指導の工夫」

5 授業参観シートについて

授業参観シートには、

- A 授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
- B ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し表現する場面が設定されているか。
- C 観点別学習状況評価

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

などについて記述し、印刷した用紙を授業者および研修部（出勤簿横の箱）に提出する。

データは、

¥職員共有¥09 研修部¥2022 (R04) 研修部¥10 互見授業¥令和4年度 授業参観シート

このフォルダに参観した教科と参観者名をファイル名として保存する。

6 その他

授業参観シートに記載されたものの一部を抜粋し、令和4年度研修収録に記録する。

授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	佐藤睦美		
授業者	高橋環	教科名	数学
科目名	数学B	教室	3年A組
参観日時	令和 4年 11月 4日 (金) 1 校時		

授業参観の観点	
A	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

授業改善のために参考になったこと

- ・間違っているとか正しいとかを証明するという形の問題のパターンで、面白いと思いました。
- ・グループにしているので、分からない人も分かっている人から教えてもらってやれているのでみんなが授業内容に参加できていたと思いました。
- ・さいころやコインといったイメージしやすい物を用いた内容だったので、生徒も具体的に書いてみようとする様子が見えました。これがちょっとイメージできないと、計算だけに頼ろうとして、思考停止する生徒もいるので、そういう面で問題の選択の大切さを学びました。
- ・具体物(さいころ)を用いて説明することでイメージできていない人も納得がいくようでした。
- ・生徒がしっかり相手にわかるように説明できていたと思います。
- ・余談の部分も面白く、勉強になりました。

その他 気づいた点

- ・最初のウォーミングアップは割とできていたので、さらっと流しても良かったように思います。その分後半に時間を取れたかったのではないかなと思って見ていました。

授業参観させていただきありがとうございました。

授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	菊地徳雄		
授業者	杉山由紀子先生	教科名	英語
科目名	論理・表現 I	教室	1A
参観日時	令和4年10月27日 (木) 1校時		

授業参観の観点	
A	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

<p>授業改善のために参考にやったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の狙いが明示されていた。 ・生徒が自分の名前の由来についてクラスの前で表現する活動であり、表現活動が実施されていた。 ・あらかじめ用意した原稿を読み上げる活動であり、現在の英語力を用いてしっかり準備をして授業に臨んでいた。 ・聞いている生徒には評価のためのシートがあり、聞く生徒の活動にも配慮されていた。 ・発表生徒は原稿を読み上げる形になっており、よくありがちな原稿に目をやり早口で話す状況であった。あまりよく聞こえない発表もあった。プレゼンテーションとしては、目を合わせてしっかりと伝わるように話させることが必要だと感じた。
<p>その他 気づいた点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTが発表についてコメントする形であったが、せっかくのALTの技能が生かし切れていないように感じた。生徒にはALTが例を示した後、事前に動画で発表を録画させて提出させ、良いものを実際に再生しながらしっかりとコメントする方法も良いのではないかと感じた。教室で再生されなかったものにもALTがコメントする形にすると、生徒はフィードバックが得られて活動の成果が記録されいつでも見られると思う。同様にJTEも評価をすることができるので、利用してみると良いと思う。

授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	鈴木佐和子		
授業者	高橋 雅美先生	教科名	理科
科目名	生物基礎	教室	生物実験室
参観日時	令和 4 年 10 月 26日 (水) 2校時		

授業参観の観点	
A	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

授業改善のために参考になったこと

実物投影機を適切に使われていて、特にわかりにくいだ腺の位置を丁寧に伝える努力を重ねられていました。生徒にもうまく伝わっていたと思います。

その他 気づいた点

ユスリカのだ腺巨大染色体の実験は非常に難易度が高く、自分自身もとても苦手になっているためどうしても避けてしまう実験のひとつです。今後も先生と明美先生の実験を見学させていただいてなんとか自分のものできるようにしたいのでこれからもどうぞよろしくお願いします。

授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	齊藤 道太		
授業者	佐々木 輝雄	教科名	地理歴史
科目名	地理総合	教室	1-A
参観日時	令和 4年 11月 4日 (金) 6校時		

授業参観の観点	
A	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

授業改善のために参考になったこと

- ・生徒が調べた内容を発表させ、それを共有する授業であったこと。
- ・ゲーム的要素を取り入れ、授業にメリハリを持たせていること。
- ・ただ地図を見て確認させるだけでなく、実際に地図を描かせているところ。
- ・生徒にクロームブック、電子黒板を活用させているところ。

その他 気づいた点

- ・指名→返事→規律→回答(発表)→拍手の流れが習慣化されているところ。
- ・飽和水蒸気量から地形性降雨のメカニズムを説明した点が大変勉強になった。
- ・発表の際、下を向きながら「原稿を読む」ことが多くなり、後ろの方まで声が届かない班もあった。

授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	高橋 仁		
授業者	佐々木祐輔	教科名	保健体育
科目名	体 育	教室	第一体育館
参観日時	令和 4 年 11月 9日 (水) 1 校時		

授業参観の観点	
A	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方を用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

授業改善のために参考になったこと

- ・バスケットボールにつなげるための題材としてアルティメット(フライングディスク)を活用していた。
- ・バスケットボールの特徴である攻防の素早い切り替わりについて説明を加え、「きびきび」をキーワードとして素早い行動を促していた。
- ・最終的な到着点であるゲームを見据えて、味方が走り込んだ先にパスを出して上手にキャッチする活動を通じて、空いている空間の活用につなげていた。

その他 気づいた点

- ・上手にできていること、もう少し努力すべきことをタイミング良く分けて指示している。
- ・全体で授業を作り上げる雰囲気が良い。

授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	高橋 雅典		
授業者	佐藤 秀作	教科名	商業
科目名	ビジネス情報	教室	情報処理室
参観日時	令和 4 年 11 月 18 日 (金) 4 校時		

授業参観の観点	
A	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方を用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

授業改善のために参考になったこと

- ・生徒の理解を促進するために、課題の考え方についてのスモールステップによる教授
→生徒が自分で仕組みを考えて省略したり精緻化したりする余地を残している。
- ・作業時間を設定することで、生徒が時間に配慮した取組ができる。
- ・既習範囲や他教科の内容を踏まえて作業課題を設定している。
→図形の角度の考え方を踏まえて、作図方法の指示プログラムを考えなければならない。
- ・プリントにない課題を与えることで、授業内容を踏まえた生徒独自の作業をする余地を残す。
→与えすぎないことで、生徒の自主性を伸ばす配慮をしている。

その他 気づいた点

- ・まとめの時間で、授業内容を応用することでより高度なことができる、という事例紹介をして今後の授業における生徒の興味関心を引きつける配慮をしている。
- ・これまでの授業の様子から、生徒の理解度や取組状況、興味関心など、個々の状況を踏まえて、机間巡視で適切な指示を与えることで、進捗度に過度な差が出ない配慮をしている。
- ・生徒とのリレーション作りが上手にできていることが感じられ、授業に勢いがうかがえるとともに、生徒が楽しそうに授業に参加しているように思われた。

授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	門間 雅則		
授業者	高橋・能登	教科名	工業
科目名	電子情報技術	教室	3E
参観日時	令和 4 年 10 月 25 日 (火) 2 校時		

授業参観の観点	
A	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方を用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

授業改善のために参考になったこと

- ・ICTの活用
- ・リアルタイムの相互評価
- ・発表者を聞く姿勢
- ・自分の意見を伝えるための表現法
- ・作業内容の明確な指示

その他 気づいた点

お疲れ様でした。今後の参考になりました。

授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	柿崎 治夫		
授業者	小野由衣・吉沢直子	教科名	福祉
科目名	生活支援技術	教室	専攻科6階介護実習室
参観日時	令和 4年 10月 31日 (月) 5・6校時		

授業参観の観点	
A.	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B.	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C.	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

授業改善のために参考になったこと

車椅子をベッドに近づけるときのポイントを、プリントを配付して生徒に考えさせて書かせ、生徒に発表させながらその内容を先生がスライドに入力し、後で参照できるようにしていた。

その他 気づいた点

専攻科の介護福祉科で介護福祉士を目指す生徒が集まっているため、落ち着きと緊張感のある授業だった。実際の作業の場面では、グループ内でかなり細かいところまで被介護者の体の状態を実際に見て考えながら、その都度支援法の改善点を指摘し合っている点が印象に残った。

授業研修 (互見授業)

授業者：各教科代表者



1 単元名 東アジアの激動「東アジア国際秩序の再編」

2 単元の目標

- (1) 19世紀後半の東アジアの国際情勢を、意欲的に考察できるようになる。(関心・意欲・態度)
- (2) 帝国主義の多様な性格(技術革新、アジアやアフリカに対する見方、移民との関係、国民の動員など)を理解させ、その影響について考察する。(思考・判断・表現)
- (3) 統計資料などから各国の経済事情を把握する。(資料活用の技能)
- (4) 東アジア国際秩序の変化を、重要語句に着目しながら理解する。(知識・理解)

3 単元と生徒

本単元では、東アジアに列強が進出したことで中国の国際的地位低下、日本の国際的地位向上と大陸進出など、2千年続いてきた国際秩序が変化したことを学習する。日本の帝国主義の始まりでもあることから、当時の日本国内事情もふまえながら学習をしなければならない。そのため複雑にはなるが、日本と世界の関わりを理解する重要な単元である。

生徒らは、まだ知識や理解に乏しいところはあるが、歴史学習に対する意欲は向上してきており、主体的に考察して意見交換する姿勢が育まれてきている。

4 指導計画(全5時間)

- (1) 清朝の動揺とヨーロッパの進出(1時間)
- (2) 国内動乱と近代化の始動(1時間)
- (3) 日本の開国と明治維新・東アジア国際秩序の再編(2時間)
- (4) 現在の東アジア情勢と日本の外交政策(1時間)(本時)

5 本時の計画

- (1) 本時の目標：東アジア情勢の今後を考察し、外交問題解決の見通しを立てる。
- (2) 展開【評価の観点 ア：関心・意欲・態度 イ：思考・判断・表現 ウ：資料活用の技能 エ：知識・理解】

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (10分)	1. 現在の日韓関係について知っていることを発表する。 2. 関係改善が進まず、両国の間に溝が生じていることを確認する。 3. 目標を提示する。 目標：東アジア情勢の今後を考察し、外交問題解決の見通しを立てる。	・発言がでない場合は、1つの事象から派生的に意見がでるようにする。 ・当事国だけでなく、第3国も関わっていることを補足説明する。	ア：日頃から社会的関心を持っているか。
展開 (35分)	1. 5人で一つのグループになる。 2. 日本、アメリカ、朝鮮、中国、ロシアの情勢について書かれた報道記事から各国間の関係を考察し、模式図をつくる。 3. 今後、日本はどんな外交をすべきか、グループ内で意見をまとめる。 4. 各グループの意見を発表し、全体で共有する。	・1人が1国の情報を収集し、グループ内で話し合いながら模式図を作成させる。 ・ホワイトボードに要点をまとめながら、発表の準備をさせる。	ウ：資料から情報を読み取れているか。 イ：適切な言葉で意見をまとめられているか。
整理 (5分)	1. 本時の感想を書き、自己評価をする。	・評価シートにまとめさせ、回収する。	

6 目指す生徒の姿

歴史的思考力を培うことで、今後の人間社会がどう動くのか考える力をつけてもらいたい。同時に、今の国際問題は多くの国が絡むことから、国際社会問題の複雑さ、解決の難しさに気づいてほしい。

授業研修 実践発表

湯沢翔北高等学校
教諭 藤原 吉隆

①設定した課題

生徒自らが現代社会に問題を見出し、解決に向けて共同できる指導をする。

②実践授業の工夫点

教科書の内容を学ぶのではなく、教科書で学んだことを生かせるかどうか、チャレンジしてみた。一人では時間がかかり、難しい作業となるため、グループでの作業とした。また、発言することに消極的な生徒も数名いるため、必ず役割をもたせられるようエキスパート活動を取り入れることにした。

③実践紹介

■授業の流れ

- 1 現代の国際情勢について、知っていることを述べる。(興味・関心)
→人によって知っていることは異なるため、知識を全体で共有。
- 2 本時の目標を確認。プリントを配付し、授業の流れを把握。
- 3 5人一組になり、報道から外交関係・国際情勢を読み取る。
→1人1国を担当し、その後お互いに情報を交換しあう。(資料活用の技能・エキスパート活動)
- 4 読み取った情報から考えられる国際情勢を図式化。
→情勢が一目でわかるようにする。
- 5 今後の展望について、状況改善のためにはどうすべきかグループ内で意見を出し合い、まとめる。
- 6 各グループから発表。全体で共有化。

④自己評価

「思い切ったことをやってみよう」との思いから、過去ではなく未来を予測させる授業をしてみたが、これをやって、何になるのかという気持ちになった。

指導するうえで気をつけるべきだったのが、図を書かせる際にただのホワイトボードを使用したことである。地政学の観点を取り入れたかったが、それができなかったグループもあった。また、報道内容を勘違いしてしまうケースもあったため、上記の4の活動のあとに一度全体で情勢の確認をすべきだった。

授業時間の大半がグループ活動だったため、見た目には何ともつまらない授業だったと思う。意外にも生徒らは面白かったと言ってくれ、それだけが唯一の救いである。

令和4年度不祥事防止校内研修

資料

秋田県立湯沢翔北高等学校

女子生徒に不適切行為、教諭 2 人懲戒処分

栃木県教委

2022 年 9 月 6 日 | NHK WEB

県内の中学校に勤務する40歳の男性教諭が、部活動の指導をしていた複数の女子生徒に個別にマッサージを行っていたとして停職3か月の懲戒処分を受けました。この教諭は6日付けで依願退職したということです。

懲戒処分を受けたのは県東地域の中学校に勤務する40歳の男性教諭です。県教育委員会によりますと、この教諭は、去年8月からことし1月にかけて、部活動の指導をしていた複数の女子生徒に対し、練習後、部室などで1対1の状態、肩や背中、それに足などのマッサージを複数回、行っていたということです。生徒の1人が保護者に相談したことから明らかになったということで、県教育委員会は、不適切な行為を行ったとしてこの教諭を停職3か月の懲戒処分にしました。教育委員会に対し、教諭は、「練習後の流れでマッサージをしていたが、考えが及ばなかった。生徒を傷つけてしまい申し訳ない」などと話し、6日付けで依願退職したということです。

このほか県教育委員会は、SNS(LINE)を使って女子生徒と不適切なやり取りを数十回、行ったとして、県北地域の高校に勤務する43歳の男性教諭を6日付けで減給6か月の処分にしました。

教育長は、「2件の事案が発生したことは誠に遺憾だ。教育に携わる者としてどうあるべきかを再確認するとともに、教職員一人ひとりの規範意識を高め、不祥事の撲滅と信頼の回復に努めていく」とコメントしています。

質問1 この事例で、男性教諭どのような点に問題があったのでしょうか。

質問2 この事例の後に学校が早急にとるべき対応には、どのようなものがあるのでしょうか。

質問3 学校でどのようなことに取り組んでいけば、未然に防ぐことができたと思いますか。

質問4 この事例から、あなたは、日頃どのようなことを心がけて勤務していこうと思いますか。

学校職員、飲酒運転で田んぼに転落し車放置

千葉県教委

2022年8月17日 | 千葉日報

千葉県教委は17日、飲酒運転をして物損事故を起こしたまま逃げたなどとして、県立高校事務職員の男性主事(26)を停職6月の懲戒処分とした。また、校内でのセクハラ行為で県立特別支援学校の男性教頭(55)を減給10分の1(3カ月)とした。教育総務課長は同日、県庁で会見し「県民の信頼を損ねる行為で、誠に遺憾。深くおわび申し上げます」と謝罪した。

県教委によると、男性主事は2021年8月21日朝、飲酒運転をした上、道路脇の電柱に衝突し、田んぼに車ごと転落する事故を起こしたが、通報せずに車を放置して帰宅。署からあった計3回の電話に出ず、同日午後8時ごろ、父親に伴われて出頭した。前日の20日夜から21日未明にかけて、友人4人と訪れた君津市内のカラオケ店でコークハイなど計6杯を飲んでいて、

男性主事は今年7月1日、木更津簡裁から道交法違反(当て逃げ)罪で罰金1万5千円の略式命令を受け、納付した。時間が経過していたため出頭後の飲酒検知でアルコールが検出されず、飲酒運転での刑事罰は受けていないという。

県教委の聴き取りに「酒が残っている認識があったが、普通に近い状態だったので運転した。飲酒運転の発覚を恐れて通報せず、電話に応じなかった。申し訳ない」と話している。

質問1 この事例で、主事のどのような点に問題があったのでしょうか。

質問2 学校でどのようなことに取り組んでいれば、未然に防ぐことができたと思いますか。

質問3 この事例から、あなたは、交通事故・違反について、日頃どのようなことを心掛けていこうと思いますか。

平手打ち体罰の顧問教諭を懲戒解雇

兵庫県教委

2022年10月13日 | 産経WEST

兵庫県姫路市の女学院高は13日、ソフトボール部員の1年生の女子生徒(16)に体罰を加えて全治1カ月のけがを負わせたとして、顧問の男性教諭(41)を懲戒解雇したと明らかにした。校長は「申し訳なく、責任を痛感している」とのコメントを出した。解雇は12日付。

同校によると、教諭は9月の大会で生徒がユニホームを忘れたことに腹を立て、頬をたたいたり、「おまえなんかいらん」などと暴言を吐いたりした。生徒は口の痛みが続き、外傷性開口障害と診断された。

同校は、五輪バレーボール男子日本代表監督を務めた大学教授を特別顧問に招いて教員への研修を行う他、生徒へのアンケートなどの再発防止策を実施するとしている。

質問1 この事例で、教諭のどのような点に問題があったのでしょうか。

質問2 学校でどのようなことに取り組んでいれば、未然に防ぐことができたと思いますか。

質問3 この事例から、あなたは、体罰について、日頃どのようなことを心掛けていこうと思いますか。

職員番号		氏名	
------	--	----	--

教職員の不祥事防止のためのチェックリスト [教職員用]

はい ○ いいえ × どちらともいえない △

[公務員としての責任・意識に関すること]

1	自分が公務員であることを常に自覚し、法令を遵守し、公務員倫理を意識して行動していますか。	
2	不祥事は、他の学校のこと、他人事との意識ではなく、自校のこと、自分のこととして意識していますか。	
3	他の教職員の言動に気になることがあっても黙認せず、率直に意見が言える雰囲気がありますか。	
4	勤務時間外であっても、自らの行動が教育全体の信頼に影響を与えることを常に意識して行動していますか。	
5	「不祥事防止ハンドブック」について理解していますか。	
6	不祥事があったとき、生徒や学校・教育全体、また家族など周囲の人々に取り返しのつかない深刻な打撃を与えることを考えていますか。	

[生活に関すること]

1	普段の生活の中で、ストレスをためない工夫をしていますか。	
2	身近に悩みを話すことのできる相手がありますか。	
3	家族や同僚等とのコミュニケーションを積極的に図るようにしていますか。	
4	過度の遊興にふけったり、借金をしてギャンブルに金をつぎ込んだりするなど、公務員としてふさわしくない行為をしないよう、平素から心掛けていますか。	

[体罰]

1	体罰が人格を傷つけ人権を侵害する行為であることを認識していますか。	
2	児童生徒や保護者と人間関係ができていれば、少しの体罰なら許されると思わず、いかなる場合も許される行為でないと理解していますか。	
3	児童生徒への指導は、自分の感情を抑え、冷静に行っていますか。	
4	児童生徒の問題行動に対して体罰に頼らない適切な指導ができていますか。	
5	児童生徒を一方向的に自分の方針に従わせようとする事なく、児童生徒の意見を十分に聞いていますか。	
6	同僚の体罰を目撃したら、速やかに止めたり、管理職に報告していますか。	
7	生徒指導を一部の教職員に任せきりにせず、組織的に対応していますか。	

[ハラスメント]

1	児童生徒の相談を受けたり個別指導したりする時は、必要に応じて管理職等に報告・連絡・相談をしていますか。	
2	児童生徒、保護者、他の教職員に対して、セクシュアル・ハラスメントととられかねない言動をしないように心掛けていますか。	
3	児童生徒や保護者と私的に携帯メールをするなど不適切な関わりをしないように心掛けていますか。	
4	同僚に対して感情にまかせたような発言や、大勢の前で個人名をあげて非難するようなことをせず、お互いの人格を尊重し合っていますか。	
5	同僚に対して親睦行事に強制的に参加させたり、業務とは関係ない個人的な雑用を強要させたりしないように心掛けていますか。	

[交通事故・交通違反]

1	交通法規を守り、事故を起こさないよう常に緊張感を持って運転をしていますか。	
2	飲酒をした場合、量の多少に関わらず、たとえ微量でも絶対に車を運転しないという心構えを持っていますか。	
3	深夜に飲酒した場合、翌朝や昼であっても一定基準以上のアルコールが体内に保有されることがあることを知っていますか。	
4	車を運転する者に飲酒を勧めたり、飲酒運転の車に同乗をしたりした場合も責任を問われることを知っていますか。	
5	心のどこかで「スピード違反でつかまるのは、運が悪い」と思わず、速度違反をしないよう努めていますか。	
6	特に大幅なスピード違反は、危険性の極めて高い重大な交通違反だと知っていますか。	

[個人情報の管理・守秘義務]

1	児童生徒・保護者の個人情報は、法令に基づく守秘義務があることを知っていますか。	
2	個人情報に関する書類等を学校外に持ち出したりしないよう心掛けていますか。	
3	個人情報に関する電子データの管理や、校務で使用するパソコン・記憶媒体の保管の仕方において、盗難や情報漏洩に対する対策を行っていますか。	
4	机の上、コピー機・パソコンの周辺等に個人情報を放置しないよう注意していますか。	

[公金等の適正な扱い]

1	一時的な立て替えであっても、公金を流用することはありませんか。	
2	県費外会計を扱う際、金銭出納簿や預金通帳等関係書類に記録し、整理していますか。	
3	現金はロッカーや机に入れて保管せず、速やかに預金口座に入金していますか。	
4	会計は単年度処理され、監査を受けていますか。	

【不祥事防止研修会】



令和4年度クロームブック研修会

情報視聴覚部・研修部

1 目的

ギガスクール構想により、秋田県にも今年度から生徒1人に対して1台のクロームブック(Chromebook)が配布され、授業等でも活用できる環境が整った。

本研修は、職員にクロームブックの様々な活用方法を研修・体験してもらい、知識や技能を身につけてもらうことを目的とする。

2 日時

令和4年4月19日(火)職員会議終了後(60分程度)

3 講師

佐々木 慎 二

4 その他

研修終了後、簡単なアンケートを実施します。

《令和4年度クロームブック研修会アンケート》

以下の質問項目について該当するものを(ア)～(エ)から選び丸で囲んで下さい。

1 今回の研修への関心度について

- | | |
|----------------|--------------|
| (ア) 関心があった | (イ) やや関心があった |
| (ウ) あまり関心はなかった | (エ) 関心はなかった |

2 今回の研修会をうけたことで

- | | |
|--------------------|-----------------|
| (ア) 知識は身についた | (イ) 知識はやや身についた |
| (ウ) 知識はあまり身につかなかった | (エ) 知識は身につかなかった |

3 次回のクロームブック研修会の進め方の早さについて

- | | |
|---------------------|--------------------|
| (ア) 今回よりも早く進めてほしい | (イ) 今回と同じ早さで進めてほしい |
| (ウ) 今回よりもゆっくり進めてほしい | (エ) その他() |

4 研修で取り上げてほしい内容がありましたら、ご記入ください。

5 研修について感じたことがあれば自由に記述下さい。(強制はしません)

令和4年度クロームブック研修会アンケート集計

1 今回の研修への関心度について

(ア) 関心があった	8
(イ) やや関心があった	7
(ウ) あまり関心はなかった	0
(エ) 関心はなかった	0

2 今回の研修会をうけたことで

(ア) 知識は身についた	2
(イ) 知識はやや身についた	12
(ウ) 知識はあまり身につかなかった	0
(エ) 知識は身につかなかった	0

3 次回のクロームブック研修会の進め方の早さについて

(ア) 今回よりも早く進めてほしい	2
(イ) 今回と同じ早さで進めてほしい	4
(ウ) 今回よりもゆっくり進めてほしい	8
(エ) その他 ()	0

4 研修で取り上げてほしい内容がありましたら、ご記入ください。

担任編、教科担任編などそれぞれの活用例があるとわかりやすく、モチベーションが上がります。
画面共有のやり方などをしりたい。
実際の授業でのやりとりなどについて、さらに具体的なものを知りたいです。

5 研修について感じたことがあれば自由に記述下さい。(記述の強制はしません)

他の人とクロームについて話したり、教えてもらったりするよききっかけとなりました。
映像よりも、現物の投影の方が理解しやすい。
回数を重ねないと覚えられないので、機会を何度か設けてほしい。
出張と重なり、参加できず残念です。マニュアルのようなものを作成していただけると助かります。

編集後記

湯沢翔北高校研修集録が完成しました。この冊子は、日々多忙な中、全職員の御協力のもとで完成できた努力の結晶です。今年度は、各種年次研修や本校で行われた様々な授業研修や職員研修を記録として残すことができ、今後の教育活動に向けての足掛かりになったと思っております。次年度も引き続き実り豊かな研修活動ができることを願っております。御寄稿で御協力頂いた多くの先生方に深く感謝の気持ちを申し上げます。

令和4年度 研修集録

令和5年3月発行

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

〒012-0823

秋田県湯沢市湯ノ原二丁目1-1

秋田県立湯沢翔北高等学校